

# Maggie's Centres

－ 生きる喜びを失わないこと －

展示会期：2015年9月29日(火)－10月13日(火)

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ギャラリーエークウッドでは、2015年9月29日から2015年10月13日まで、「Maggie's Centres - 生きる喜びを失わないこと -」を開催致します。

「マギーズ・キャンサー・ケアリング・トラスト Maggie Keswick Jencks Cancer Caring Trust」通称 Maggie's (マギーズ) は、造園家であり中国庭園の研究者でもあった故マギー・ケズウィック・ジェンクス (Maggie Keswick Jencks) が、夫のチャールズ・ジェンクスと共に、自身のがん体験の中で創案し、実現した施設です。第一号の施設は、1996年に英国エジンバラで完成しますが、彼女はその完成を見ずに亡くなってしまいます。

マギーは、乳がんの再発が見つかり、あと数か月の命と宣告を受けました。しかしながら、その残された日々の短さを悲しみと恐怖で過ごすのではなく、希望と喜びと感謝の日々を送ろうと決意しました。

“lose the joy of living in the fear of dying”

それを可能にしてくれる施設を造ろうと決心しました。「患者や家族が気軽に立ち寄ることができ、自分を取り戻せる場所」というのがこの施設を支える基本理念として、その後イギリス各地に建設されてきました。現在では英国で15カ所のセンターが運営され、7ヶ所で開設に向けての準備が進んでいます。評価は海外にも広がり、2013年、英国外で初めてとなるセンターが香港に開設され、東京で計画中のマギーズは、19番目、海外では2番目のセンターになります。いずれの施設も、木質感あふれる安らぎを覚える施設で、一見住宅のような雰囲気計画されています。

第一号の施設計画、建設に関しては、建築家で建築評論家でもあった夫のチャールズ・ジェンクス (Charles Jencks) とマギーが通った病院のガン専門看護師であったローラー・リー (Laura Lee) がマギーの思想を実現させるために協力しました。

“Aren't we lucky?”

マギーは「建築と環境が人の気持ちに深い影響を与える」と信じ、建築や空間のデザインを重要視しました。それに賛同して、フランク・O・ゲーリー、ザッハ・ハディッド、リチャード・ロジャースなど世界的な建築家が無償で計画に参画しています。日本からも、黒川紀章氏が参画しました。今回の展示では、それらの施設の概要を紹介し、建築空間の大切さと果たす役割の可能性について考える機会になればと考えています。現在、この思想に共鳴して進められている日本での計画状況も合わせて紹介します。

この機会に是非ご来場くださいますよう、ご案内申し上げます。また、貴紙誌にてぜひ記事としてお採り上げいただきたく、宜しく申し上げます。

敬 具



GALLERY A4

2015年8月  
公益財団法人 ギャラリーエークウッド



## ■企画概要

展覧会名：Maggie's Centres - 生きる喜びを失わないこと -  
会 期：2015年9月29日(火)～2015年10月13日(火)  
会 場：Gallery A<sup>4</sup>(ギャラリーエークウッド) 〒136-0075 東京都江東区新砂1丁目1-1  
開館時間：10:00～18:00(最終日は17:00まで)  
休館日：日・祝日  
入場料：無料  
主 催：公益財団法人ギャラリーエークウッド  
後 援：maggie's tokyo マギーズ東京、日本建築家協会、日本建築学会、\*他依頼中  
お問合せ：ギャラリーエークウッド事務局 担当：岡部三知代 03-6660-6011  
E-mail：m.okabe@a-quad.jp Gallery A<sup>4</sup>公式サイト：<http://www.a-quad.jp/>

## ■企画目的

マギーズセンターの歴史的・思想的背景を紹介する。命の大切さと、生きる喜びを持つことが人間にとっていかに大切か、更にはそれを支える建築や環境がどうあるべきかをこの展覧会で紹介する。また、それらを支える募金活動やボランティア活動の広がりも合わせて紹介し、日本における活動も側面から紹介する。

## ■展示概要

- ・現在までに完成している英国、香港のマギーズセンターを写真、図面、ビデオ等で紹介
- ・現在計画中のプロジェクトを日本も含めて紹介する

## ■その他、期間中のイベントについて

### 1. シンポジウム「世界のマギーズセンターの建築とサポータビケア」(仮題)

日 時：9月28日(月) 18:30～20:30

講 師：ローラ・リー (マギーズセンターCEO)

秋山 正子 (白十字訪問看護ステーション統括長、NPO 法人マギーズ東京共同代表)

山崎 亮 (コミュニティデザイナー・studio-L 代表)

司 会：佐藤 由巳子 (NPO 法人マギーズ東京 建築アートコーディネーター)

\* 鈴木 美穂(テレビ局記者、NPO 法人東京マギーズ共同代表)も参加予定です。

\* 諸事情により、講師の変更がある場合がありますのでご了承ください。

場 所：竹中工務店インテスホール(〒136-0076 東京都江東区南砂2丁目5-14 東陽町インテス)

\* 展覧会場と場所が異なりますのでご注意ください。

定 員：150名(申込制、HPよりお申込みください。<http://www.a-quad.jp/>)

### 2. ナースによるがん治療と暮らしのミニレクチャ&くつろぎのティータイム

がんの専門病院・緩和ケア病棟・訪問看護などでがん患者さんの看護に長く携わり、マギーズ東京に賛同して支援活動中の看護師が、日替わりでお待ちしております。がん治療や生活に関する冊子や図書もあります。申し込み不要、無料、どなたでもお気軽にどうぞ。

日 時：10月3日(土) 9:30～、11:30～、13:30～、15:30～

10月9日(金) 9:30～、11:30～、13:30～、15:30～

10月10日(土) 9:30～、11:30～、13:30～、15:30～

場 所：ギャラリーエークウッド(展示会場内の特設コーナー)

看護師：秋山正子(白十字訪問看護ステーション統括所長, 暮らしの保健室室長)

濱口恵子、梅田恵、中村めぐみ

\*\*\*上記看護師の皆さまが、日替わりで担当されます。



■参考画像

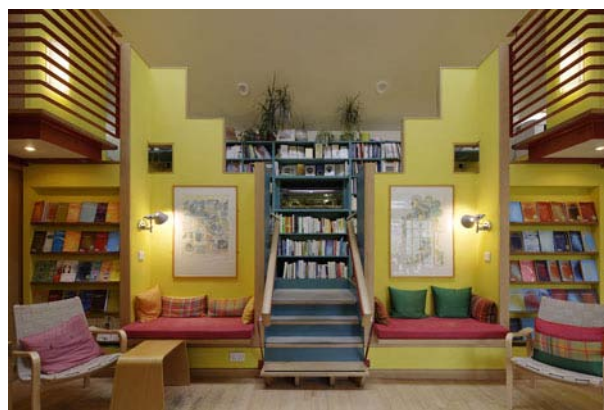
マギーズセンターの建築について

建築デザインについて、マギー・ジェンクスはコンセプトとして以下の要件を与えた。  
美術館のように魅力的であり、教会のようにじっくり考えることができ、病院のように安心でき、家のように帰ってきたいと思える場所。いずれの建物にも大きな窓があり、外の風景がよく見えるようにしている。建築とランドスケープが一体的な環境をつくり、患者の不安を軽減するという考え方に基づいている。

- 自然光が入って明るい
- オープンキッチンがある
- 一人になれるトイレがある
- 安全な(中)庭がある
- セラピー用の個室がある
- 280㎡程度
- 空間はオープンである・執務場からすべて見える
- 暖炉がある、水槽がある
- 建築デザインは自由



Edinburgh:リチャード・マーフィー



Edinburgh (内観):リチャード・マーフィー



Dundee :フランク・O・ゲアリー



Nottingham:ピアース・ゴフ、内装はポール・スミス



Highlands:ペイジ・パーク  
ランドスケープはチャールズ・ジェンクス



Swansea (内観):黒川紀章